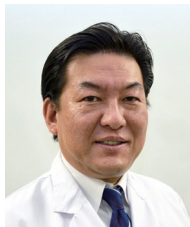


特集 3 皮膚炎と亜鉛



かわむら たつよし

川村 龍吉

山梨大学医学部 皮膚科学講座 教授

要旨

亜鉛が欠乏すると特徴的な皮膚炎が開口部や四肢末端に限局して見られるが、近年この皮膚炎の発症メカニズムが明らかになった。亜鉛欠乏症患者では外界の刺激物質への曝露が表皮細胞からのアデノシン三リン酸 (ATP) の放出を促す。通常、この強力な起炎物質である細胞外ATPは、ランゲルハンス細胞に発現されるCD39によって代謝を受けるが、亜鉛欠乏患者では同細胞が減少・消失するために細胞外ATPによる炎症を抑制できず、一次刺激性接触皮膚炎を発症しやすくなる。すなわち、亜鉛欠乏症患者に見られる眼囲や口囲、肛門周囲、外陰部、四肢末端の特異な皮膚炎は、それぞれ眼脂や食物、し尿、生活環境における化学物質などが刺激となって引き起こされた一次刺激性接触皮膚炎である。

キーワード

一次刺激性接触皮膚炎, アデノシン三リン酸 (ATP), ランゲルハンス細胞

語句解説

対 特集
談 1

特集
2

特集
3

特集
4

特集
5

特集
6

最新
トピックス

徒然なる
ままに。